

# 『新千歳市史 通史編下巻』の刊行に向けて

中村 康文

千歳市総務部主幹（市史編さん担当）

『新千歳市史 通史編上巻』を平成二十二年三月に刊行してから「志古津」の発行や資料の収集など五年の準備期間を経て、本年五月、市総務部に市史編さん担当主幹が再設置され、通史編下巻の編さん作業が本格化するようになった。

編さん方針を決める千歳市史編さん委員会委員には、『新千歳市史』編さん開始当初から「上巻」刊行まで編さん委員会会長を務めた田端宏氏と、それぞれの分野で活躍し千歳地域の戦後史に精通している六人の市民を選

## 千歳市史編さん委員会委員

役職	氏名	現職	経歴
会長	田端 宏	北海道教育大学名誉教授	
副会長	駒澤 文雄		千歳市副市長
委員	三溝 茂	千開拓協議会事務局	千歳市開拓農業協同組合参事
委員	三上 禮子	書家、NPO法人千歳ひと・魅力まっつくりネットワーク代表	
委員	渡部 徹夫		千歳商工会議所専務
委員	本宮 宣幸	会社役員	千歳市公営企業管理者
委員	橋爪 耐三	千歳温故知新の会代表	会社役員

任し、八月十八日に市長から委嘱状が交付された。

「上巻」は、自然先史、古代、中世・近世、近代の終戦までが領域であったことから、大学の教員や研究者など専門家が執筆者の八割を占めた。

これから編さんにあたる「下巻」は戦後から現在までを領域とするが、北海道史の研究者は多数いるが北海道の戦後史を専門とする研究者は少ないという。

地域の現代史を調べ執筆できるのは、専門家ではなく郷土千歳を知る地域の人々が中心となる。

本市の戦後は、連合国軍の進駐、自衛隊の駐屯、空港の伸展、工業団地の造成など、占領期の混乱から復興、そして目覚ましい発展。さらには支笏湖の国立公園指定や伝統的なアイヌ文化など、「下巻」には他の自治体にはない史実が数多く盛り込まれることになる。

すでに編さん委員会において審議を重ね、編さん事業の基本計画、目次構成、執筆体制などが決められた。執筆は、編さん委員会委員をはじめ、地域史の研究者、市職員・OBなど約四〇人が担い、執筆者の思いが込められ読み手が満足しうる充実した内容とするため、編さん委員及び市史編さん担当者が内容の校正・総括を行いながら、平成三十年度の刊行を目標に編さん作業を進めていく。

「下巻」の編さん基本計画は次ページ以降に記載する。



第1回千歳市史編さん委員会（平成27年8月18日市本庁舎庁議室）

## 『新千歳市史 通史編下巻』編さん基本計画

はじめに

千歳の歴史が「書」としてまとめられたのは昭和二十四（一九四九）年・開庁七〇年を記念し職員により叙述された『躍進千歳の姿』が嚆矢といえる。

本格的な歴史書としては、昭和四十四年に更科源蔵（詩人、郷土史家）による『千歳市史』、五十八年には『千歳市史』を補完する『増補千歳市史』が長見義三（小説家、郷土史家）によつて叙述された。これら二冊の市史はいずれも開庁九〇年（昭和四十四年）、開庁一〇〇年（昭和五十四年）に絡んで刊行されたものであった。

その後、編さん事業は停止状態となり、資料の収集、保存、整理がなされないまま二〇余年が経過した。

平成十五（二〇〇三）年に至り、二十年の市制施行五〇周年記念事業として『新千歳市史』刊行が計画された。『新千歳市史』は、自然、先史、古代から近代の終戦までを「通史編上巻」、戦後を「通史編下巻」として編さんすることとし、二十二年三月に「上巻」を刊行した。「上巻」刊行から五年にわたる資料収集の期間を経て、二十七年度から「下巻」の編さん事業を本格的に再開すべく市総務部内に市史編さん担当部署が新設されたところである。

「下巻」の領域となる本市の戦後は、他自治体にはない世界史と日本史の混乱といううねりの中で発展を遂げてきた。

昭和二〇年代の連合国軍（米軍）進駐による混乱の時代を経て、三〇年・四〇年代には米軍撤退と自衛隊の来駐、工業団地の造成、空港の発展など、

復興と飛躍を遂げて北海道の中核都市へと成長する。その後も空港の伸展や陸路と鉄路の充実のなかに都市基盤の整備が進み人口も順調に増え続けてきた。さらに、本市ならではの国立公園支笏湖や伝統的なアイヌ文化などの特徴的な歴史が数多くある。

過去から現在へと受け継がれ、積み重ねられた郷土千歳の歴史は、現在から未来に向けての指針となるものであり、今後のまちづくりに資するためこれを「市史」として後世に残さなければならぬと考え、基本計画を策定する。

### 一. 目的

歴史を著すことは、「事実の累積」を整理し、解釈と評価を加えることである。

どういう事態で、誰がどう考え、誰がどのような選択をしたのか、そこには、人々の息遣いや、地域の風土、あるいは時代のおいといったものがある。

世の中を動かしているのが誰であるかを考え、時代の行方を読み取るのが歴史である。

歴史は、その地域の文化の進歩を計る一つの有力な指標である。歴史を読むことは、その「まち」やそこに住む人を理解する近道である。この「まち」にとつて、そうした歴史を叙述することが編さんの目的とする。

### 二. 基本方針

(一) 歴史は、直接的に未来を指し示すものではないが、歴史から活力を引き出し、今のわれわれの社会に向けてメッセージを発してくれるものでなければならない。

- (二) 地域には由来と特質においてその地域ならではの固有性がある。地域の固有性は日本列島の歴史過程を反映した普遍性から成り立ち、人々の歩みもその影響下にある。
- (三) 編別構成は部門別とし、一つの項目が時代を跨るのではなく、項目ごとにまとめて時系列にすることで変遷がわかりやすく、読み手が調べやすい構成とする。また、部門別の前段に「概史」を記載し、市史全体の概略とその背景が理解できるようにするため、戦後史を四つの時代に分けて国内外・道内の主要な動きとともに本市の歴史を要約する。
- (四) 千歳の戦後史は、連合国軍の進駐と基地の閉鎖そして要員の大量解雇と振り子のごとく、一方から他方へ極端にゆれ動いた。さらに、満州を失った開拓民を受け入れる「内なる満蒙」、陸空自衛隊の来駐などは世界や日本の政治の潮流と無縁ではなかった。このように千歳をみると戦後の日本が辿ってきた様々な特徴が先鋭的に表出した地域であるといえよう。これらを明らかにすることは、地域史のみならず日本史全体を考える上でも重要である。
- (五) 行政史に陥らず、社会、経済など多角的な視点と、開拓に携わった人々や市民生活の描写に重点をおき、地域の実態や時代の推移を浮かび上がらせ、そのなかで市民が果たしてきた役割を明らかにすることが肝要である。
- (六) 市史編さん事業の意義を広く市民に伝え、情報収集などにおいて市民の理解と協力が不可欠である。一般市民に広く読まれることを目指し、文章表現は平易であることを心がけ、同時に学術的にも高い水準なものを目指さなければならぬ。
- (七) 記述は具体性、客観性をもたせるとともに最新の研究成果を盛り

込む。つまり十分な研究能力を持った者と、地元の状況を詳しく知る人物が連携し研究能力を高めるのも本事業のもう一つのねらいとするところである。

- (八) 原則として平成二十六年度までの事項を掲載するものとする。
- (九) 市制施行六〇周年にあたる平成三十年度の刊行を目途に計画する。

『新千歳市史 通史編下巻』編さんスケジュール

年度	主な事業内容
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市史編さん委員の委嘱</li> <li>・編さん基本計画の作成</li> <li>・目次構成の作成</li> <li>・執筆体制の確立（執筆者の選定）</li> </ul>
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査、原稿執筆</li> <li>・執筆の進捗状況確認</li> </ul>
平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査、原稿執筆</li> <li>・執筆の進捗状況確認</li> <li>・原稿の提出</li> <li>・原稿内容の調整</li> </ul>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・編集、校正、印刷</li> <li>・刊行</li> </ul>

## 『新千歳市史 通史編下巻』編さん基本方針実施要領

### 一．資料の収集、整理及び保存

- (一) 既存資料のデータ化により検索を容易にする。
- (二) 全庁的な協力体制を構築し、執筆、資料提供、情報提供を求める。
- (三) 史料調査、市民からの聴き取り調査などを積極的に行う。
- (四) 個人のプライバシーには十分に配慮する。

### 二．執筆体制の確立

- (一) 各分野の項目ごとに分担者を決める。専門領域などについては研究者、機関などに協力を求めていく。
- (二) 郷土史、地域文化などの領域については市民の参加を積極的に求める。
- (三) 行政各分野にわたる領域については市職員及び市職員退職者による執筆も不可欠であり、また、執筆に必要な資料は市が保存・保管しているものが多いことから、資料提供について市各部署の積極的な協力を求める。

### 三．市民との協力

- (一) 市史編さんは、従来行政が主導することが多かった。しかし、これからは市HPや広報誌、各メディア等を通して市史編さん事業の意義を広報し、市民に理解を求め、資料提供、聴き取りなど協力を呼びかける。
- (二) 多くの市民に編さんに関わってもらうために、協力員などの体制

を検討するとともに市民が市史に関心がもてる各種企画を検討し実施する。

### 四．市民に読まれる市史の作成

- (一) 写真・図版などを活用し見やすいものとする。
- (二) 多様な切り口や環境問題、地域文化など現代的課題にも取り組み、読む者にとつてリアリティー感のあるものとする。

### 五．編さん基本方針実施計画の策定

- (一) 市史編さん委員会の協議を踏まえ、編さん計画を確定する。
- (二) 執筆者による調整会議を実施する。
- (三) 事務局は実務を進めるに当って、都度編さん委員会に状況を報告し意見を求めていく。

#### ◎戦後混乱期の資料を探しています

『新千歳市史 通史編下巻』編さんに参考となる戦後の混乱期（昭和二〇年代から三〇年代）の街並みなどの写真や新聞・雑誌など、お借りできる資料がありましたらご連絡ください。

千歳市役所総務部主幹（市史編さん担当）

〇二三（二四）〇五二三